

課題別研修

「アジア地域 バリューチェーン構築による地域アグリビジネス振興

～高付加価値な地場食品供給のための政策・組織作りからブランド化・流通まで～」

対象国：カンボジア、インドネシア、ラオス、
ミャンマー、フィリピン、ベトナム

受入人数：7名

受入期間：2018年8月28日～2018年9月28日



本コースは、生産から加工、流通、販売に至る各過程において、付加価値を高めながら消費者につないでいくプロセス（バリューチェーン）を構築し、競争力の高い食品供給を企画・推進・調整できる人材を育成することを目的に実施しています。

今年度は、研修期間中に胆振東部地震が発生し、研修員が宿泊しているJICAセンターも停電に見舞われ、研修が一部変更となるハプニングもありましたが、冷静に受け止め、落ち着いて過ごしている姿が印象的でした。

アジア地域での生産現場では、依然として仲買人を通じて取引を行っており、生産者に利益が還元されない中、バリューチェーンの構築を図ることによって、生産者の収入の向上につなげたいと考えています。研修員は、研修で得た知見を各組織で応用、改善するという強い意欲をもって帰国しました。



帯広市川西農業協同組合さんでは、宇宙食として認められた小豆の事例から、安全安心な農産物をつくることの重要性を学びました。



帰国後の政策策定の参考にするため、農林水産省では、六次産業化に関連する支援制度を学びました。



K's FARMさんからは、とうもろこし、にんにく、豆などを加工した六次産業化事例をご紹介します。



「大正メークインまつり」では、地元農産物が地域でいかに愛されているのかを体感することができました。